

# 発刊にあたって

小川町長 松本恒夫

「和紙のふるさと」小川町は、平成26年11月に「細川紙の手漉和紙技術」がユネスコ無形文化遺産に登録された1,300年の伝統を誇る小川和紙の町です。  
埼玉県の中央部よりやや西に位置する本町は、東武東上線、JR八高線、国道254号線などが通り、また、関越自動車道嵐山小川インターチェンジが近接する交通アクセスに恵まれており、都心から約60km圏に立地しています。周囲に美しい外秩父の山々、市街地の中央には槻川が流れる豊かな自然環境に恵まれ、国史跡の下里・青山板碑製作遺跡をはじめ、先人から受け継がれてきた歴史文化と小川絹、建具、酒造などの伝統産業が息づいています。

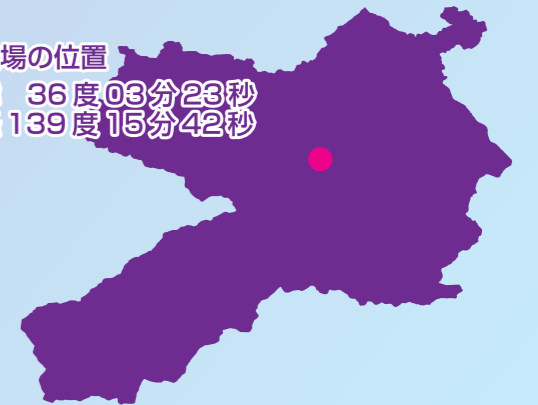
昭和30年2月11日に旧小川町、大河村、竹沢村、八和田村が合併して新しい小川町が誕生し、平成27年には合併60周年の節目を迎えることができました。この間、小川バイパス、総合福祉センターや図書館をはじめとする都市基盤の整備、見晴らしの丘公園や栃本親水公園など憩いの場の創出、小川七夕まつりや小川和紙マラソン大会を全国に発信し続けるなど、着実に展開してまいりました。

本町では、これまでのあゆみを引継ぎ、豊かな地域資源を生かし、「自然の恵みと文化を未来につなぐ、人が輝くまちおがわ」を将来像として、町民の皆さまが「生まれて良かった、住んで良かった、長生きして良かった」と思えるまちづくりを積極的に進めてまいります。  
この町勢要覧をおとして、小川町への理解を深めていただき、魅力を感じていただければ幸いです。



小川町役場の位置

北緯 36度03分23秒  
東経 139度15分42秒



## 沿革と町名の由来

面積 60.36 km<sup>2</sup>  
標高 90.9 m  
平均気温 15.4℃  
降水量 1,351 mm

昭和30年2月11日、小川町・大河村・竹沢村・八和田村の1町3村が合併し、現在の小川町が誕生しました。

小川町の位置は、外秩父の関東山地と関東平野の接点であり、町域では山地・丘陵・台地・低地と多様な地形が見られます。ともに一級河川である槻川と兜川が町の中央部に横たわりますが、これらの河川によって運ばれた岩石等により、小川盆地が形づくられました。

また、標高876mの堂平山が町内最高峰であり、その東南が仙元山へ、西が官ノ倉山と連なっています。堂平山・笠山からは関東平野が一望でき、仙元山・官ノ倉山からの眺めは絶景です。

## 町章

上部には「小」を巻物風に配し、下部には「川」を円形に描いています。このデザインは、町勢の飛躍発展と町民の和合・円満を示しています。



## 小川町 執行部



教育長 小林 和夫



副町長 大山 澄男



町長 松本 恒夫

## 小川町議会

小川町議会は、4年に1度の選挙で選出された町民の代表である16人の議員で構成され、年4回（3・6・9・12月）開催される定例議会と、必要に応じて開催される臨時議会があります。議会では町民の声や意見を十分に反映させながら、条例の制定や予算など、行政の重要な事柄について審議・議決しています。



副議長 柴崎 勝 議長 根岸 成美

